



# 「今」を乗り越え、「未来」につなぐ予算

## —予算づくりに新たな手法を導入—

市では、あらゆる施策をゼロベースから見直し、事業に優先順位を付け、限られた予算の中で実施する事業を選択する「スマートセレクト」を行い、収入に見合った予算づくりを進めています。



問い合わせ＝財政課 (559-5018 FAX 563-1366)

### なぜ手法を変える必要があるのか

今後、三田市では人口減少や急速な高齢化で市税や国・県から交付されるお金の減少する一方で、介護保険や医療などの社会保障経費は増加していきます。このままでは、1年間で最大12億円、来年度からの7年間で71億円の収支不足(赤字)が見込まれます。この他にも老朽化した公共施設の修繕・更新費用などを含めると今後必要となる費用はさらに増えていくと見込んでいます。

これまで、市税や国・県から交付されるお金などの他に基金(貯金)を有効活用して財政運営を行ってきましたが、貯金が大幅に減少しているため、これからは貯金をできる限り使わずに事業を行うことが必要です。

そこで「スマートセレクト」という新たな手法により、ゼロから事業を見直すことにしました。今ある課題を乗り越え、未来につなぐ予算をつくりたい。

### 新しい手法「スマートセレクト」とは

総合計画の施策ごとに予算の上限を設けて、それぞれの事業に優先順位を付けます。「どの事業をやめるか」ではなく、「どの事業を残すか」という視点で、事業の選択と集中を行います。本市の収入に見合った予算へと整理します。例年より2カ月早い8月から作業を始めており、市長をトップとする会議でしっかりと事業の検証を行っています。

### 平成30年度の予算に向けて

来年度は市制施行60周年の節目の年を迎え、「成熟都市の実現に向け、未来への道筋を示すまちづくり」を基本方針に予算づくりを進めます。今年度当初予算より一般財源などで約5%(13.6億円)削減を目標とし、すでに市長をはじめ市職員の給与カットなどの人件費の見直しにも取り組んでいます。将来へ負担を先送りせず、今も、これからは市民の皆さんが安心して生活できる持続可能なまちづくりを目指していきます。

### 市長の「ほっとトーク」

森のひと言

―家族の日に、家族と地域を考える―

先日、市内の小学校の校長先生から「創立30周年を記念した人文字の航空写真と小学校を囲む地域の航空写真」を送っていただきました。私の三人の子どもが同校でお世話になったご縁もあり、私も「人文字」に加えていただきました。いただいた写真を見てみると、当時の地域の姿や日々の生活が鮮やかによみがえりました。「我が家のファミリーヒストリーの一コマ」として大切な思い出です。自然豊かな三田で「家族」として豊かな人生を共有できた幸せを改めて感じます。

しかしながら、「家族と幸せを共有できない」家族も社会が複雑化・多様化していく中では多くなっています。児童虐待や配偶者への暴力など、家族内の悲劇が少なからず起こっています。人口減少・超高齢化・少子化が急速に進む三田市でもそのような悲劇が生み出される危険が潜んでいます。「家族の孤立化への対応」が重要な地域課題です。家族が孤立しないように地域が早く兆候を察知し、悲劇を防ぐ仕組みをみんなで構築していかなくてはなりません。

三田市では、平成5年から11月の第三日曜日を「三田市家族の日」(今年は19日)を設け、家族の良さを実感し、家族の在り方や家族と地域の関わりをみんなで考える機会にしていきたいと願っています。市としても地域と協力しながら「主として家族」を応援していきます。

三田市長 森 哲男

人口と世帯の動き

人口 113,511人 男 55,194人 女 58,317人 世帯数 45,778世帯 - 11月1日現在 -  
前月比 (16人減) (22人減) (6人増) (24世帯減) ( )内は前月比

17 秘 8-008 他



再生紙を使用しています